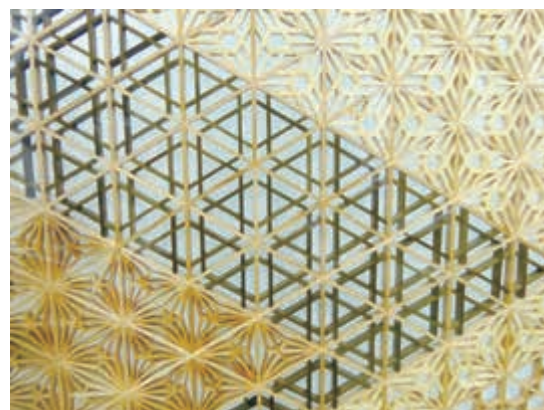


大川建具事業協同組合

■大川建具事業協同組合の活動



大川木工まつりでの建具展示



組子作品
(部分)



組子体験教室/九州芸文館



全国建具展示福岡大会(H24.7.6)



大川建具の魅力展/九州芸文館(H27.4)



(H27.7)



「よい戸の日」
奉仕作業



経済産業大臣賞(石橋建具製作所)

内閣総理大臣賞(角建具製作所)



文部科学大臣賞(渡辺建具)



大川建具事業協同組合

■大川建具事業協同組合 会員名簿 (青字で表示されている会社をクリックすると紹介ページに移ります) (五十音順)

会社名	代表者名	郵便番号	所在地	TEL(大川0944)	FAX(大川0944)
(有) アイエム	石橋 亮一	831-0041	大川市小保19-1	86-3905	86-6730
阿津坂建具	阿津坂次登	831-0041	大川市小保206	87-2665	87-2665
(株)石川	石川 正和	832-0005	柳川市西蒲池230-1-1	74-2085	74-2086
石橋建具製作所	石橋 正年	831-0026	大川市三丸600-1	87-8462	87-8463
石橋建具製作所	石橋 智明	831-0005	大川市向島560	86-4876	87-7413
上嶋建具木工	上嶋 進	831-0004	大川市榎津370-8	86-4691	86-4691
植松建具店	植松 清民	831-0041	大川市小保54-1	86-2931	86-2931
(有)江頭建具	江頭 清	831-0041	大川市小保508	86-3241	87-0477
木下建具木工所	木下 昭義	831-0035	大川市津416-4	87-2055	87-2097
木下木芸	木下 正人	831-0005	大川市向島1037-1	86-6328	86-6328
木下木工所	木下 敏	831-0026	大川市三丸764	86-4440	88-1753
古賀住建工作所	古賀 猛	831-0034	大川市一木460-1	86-7092	86-7101
古賀建具製作所	古賀 博実	831-0035	大川市津701-5	87-8267	87-8267
古賀建具店	古賀 英敏	831-0031	大川市上巻36	86-3240	87-1951
坂井建具製作所	坂井 貴之	831-0005	大川市向島2053	86-2716	86-2790
重富建具製作所	重富美智子	831-0005	大川市向島737	87-2054	87-2054
渋田建具製作所	渋田 重幸	831-0004	大川市榎津524-4	87-0555	87-0555
渋田建具店	渋田 憲明	831-0041	大川市小保637-1	88-1739	86-4783
角建具製作所	角 明成	831-0024	大川市鬼古賀150-2	87-3790	87-7816
(有)大龍サッシガラス店	龍 孝昭	831-0045	大川市大野島1389-1	88-3380	87-1538
高田建具製作所	高田 朋之	831-0042	大川市九網1062-8	86-3276	86-3276
(有)竹下建具工芸	竹下 直哉	831-0034	大川市一木733-1	87-8580	87-1182
(有)ツツミ	堤 俊士	831-0008	大川市鐘ヶ江590-9	88-0769	88-0770
(有)堤建具工業	堤 健雄	831-0043	大川市新田995-2	87-3507	87-3557
(有)鶴建具本店	鶴 剛志	831-0042	大川市九網310-1	86-2838	86-2848
鶴建具木工所	鶴 茂	831-0042	大川市九網302-7	86-4828	86-4828
永尾建具製作所	永尾 昭夫	831-0041	大川市小保240	87-5672	87-5801
永尾建具製作所	永尾 賢二	831-0041	大川市小保349-2	86-4048	86-5029
中村建具襖製作所	中村 政吉	831-0005	大川市向島1222-5	86-5080	86-3087
西村襖	西村 伸吾	831-0008	大川市鐘ヶ江433-4	87-3338	87-3408
仁田原建具製作所	仁田原 進	831-0005	大川市向島924-6	86-4302	86-4302
樋口建具	樋口 勉	831-0041	大川市小保654-4	86-2367	88-3701
前田建具製作所	前田 英治	831-0005	大川市向島2025-1	87-5231	87-7193
松島建具工芸	松島 喜富	831-0044	大川市紅粉屋22-2	86-6830	86-6830
(有)まつしま建具店	松島 忠幸	831-0026	大川市三丸1198-1	87-3310	87-0156
松本建具木工所	松本 満幸	831-0041	大川市小保73-2	87-3617	87-8805

■大川建具事業協同組合 会員名簿

(五十音順)

会社名	代表者名	郵便番号	所在地	TEL(大川0944)	FAX(大川0944)
(有) 丸建建具店	古賀 英樹	831-0042	大川市九網373-1	87-3113	86-3991
三丸建具工業	遠藤 保麿	831-0026	大川市三丸1111	88-2577	88-2576
湊屋	志岐 浩実	831-0021	大川市大橋314-5	86-4023	86-8452
宮崎建具	宮崎 宏樹	831-0041	大川市小保13	86-3550	86-3550
森満建具	森満 雄大	831-0014	大川市中木室904	86-5613	86-5783
ヤマトミ建具製作所	富田 実	831-0004	大川市榎津434-1	86-2982	86-3193
ヤマヒロ建具	古賀 浩人	831-0035	大川市津420	87-4011	87-9034
山本建具	山本 武	831-0005	大川市向島735	87-2990	87-2951
横田建具木工所	横田 光市	831-0035	大川市津618-10	87-7027	87-7243
吉北建具木工所	吉北 聞志	830-0416	三潞郡大木町八丁牟田1627	33-0522	33-0294
(有) 龍建具製作所	龍 次男	831-0043	大川市新田437	87-5309	87-5422
龍野建具店	龍野 正博	831-0041	大川市小保139	86-5060	86-5060
渡辺建具	渡邊健次郎	831-0041	大川市小保17-1	87-8381	87-9519



TOP VOICE

建具は表も裏も見える仕事だから、材料にも技術にもこだわりをもってやっています。新築の仕事にしても文化財の修復にしても、「アイエムに頼みさえすれば、安心して仕事を任せられる」と言ってもらえる工事実績が自慢です。



こだわりの建具も、学校や店舗の内装も。
さらに、文化財の修復にも数多くの実績が。

有限会社 アイエム



有限会社アイエム

所在地／〒831-0041
福岡県大川市小保19-1
代表者／石橋 亮一
TEL0944-86-3905
FAX0944-86-6730
[E-mail] tategu@aiemu.work
創業／1916年(大正5年)
設立／2005年(平成17年)
資本金／300万円
従業員／3名
営業時間／8:00～17:00
定休日／土日

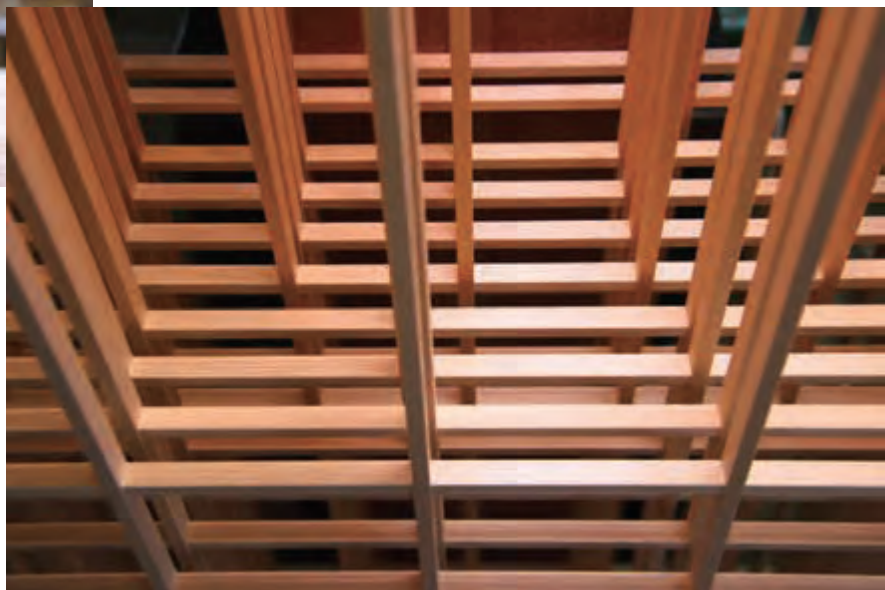
1916(大正5)年創業のアイエムは、2016(平成28)年で100周年。石橋社長によると、「祖父の時代は指もの、父の時代は建具が専門でしたが、私の代になってから、建具に加えて別注家具や内装も手がけるようになりました」という社歴があります。アイエムに入ってくる注文は、こだわりのある建具ばかり。「建具の価値を認めてくれる建築会社や設計事務所と仕事をしていますから」と石橋社長は言います。別注家具や内装は、地元の小中学校や幼稚園のほか、福岡市天神の商業ビルに入っている飲食店なども手がける幅広さです。アイエムに仕事を依頼する何よりの理由は、現場を任せられる安心感。「私たちが現



場に乗り込んで何でもやりますから、現場を管理する人材が不足している建築屋さんには助かっているようです。アイエムは会長と息子の社長2人だけの会社ですが、「大きな仕事が入ったときは、建具職人仲間に応援を頼むんですよ」と、大川の強みを生かした仕事ぶりが光ります。

そんな石橋社長が「利益追求ばかりでなく、後世に残る仕事がしたい」という思いで取り組んでいるのが、文化財の修復です。これまでに、飯塚市の旧伊藤伝右衛門邸や嘉穂劇場、福岡城下之橋御門など、さまざまな歴史的建造物の修復に携わってきました。日本の建築だけでなく、長崎と下関の旧英国領事館や、西南学院大学博物館(ドージャー記念館)など、洋館にも実績があります。「やればやるほど赤字になりますから、道楽というか自己満足の世界に近いですね」。そう言って苦笑いする石橋社長の目は、キラキラと輝いていました。





障子製作に携わり半世紀以上。 先代から受け継ぐ誠実なものづくり。——— 阿津坂建具



阿津坂建具

所在地／〒831-0041
 福岡県大川市小保206
 代表者／阿津坂 次登
 TEL0944-87-2665
 FAX0944-87-2665
 創業／昭和28年
 従業員／2名

建具のなかでも、障子をメインに製作している阿津坂建具。個人大工からの注文が多かった先代の頃とは異なり、現在は福岡をはじめ熊本、長崎などの同業者からの注文に応える仕事が増えています。製作する障子は、そのほとんどが戸建住宅用。「ライフスタイルの変化により今の住宅は洋室が中心です。和室が減ったため障子を使う家も少なくなっています」と阿津坂社長。同社では製作だけでなく、近県であれば現場に向いて寸法取りから取り付けまで行います。その分手間も時間もかかります



が、施主の方と打合せしながら責任ある仕事がしたいと、そのやり方を先代から引き継いでいます。「時にはお客様から直接依頼されるケースもあり、そういう仕事では自分のアイデアが生かしてやりがいがあります」と息子の紘一さん。これからも阿津坂建具は父子二人で切磋琢磨しながら、誠実なものづくりを続けていきます。



TOP VOICE

お客様一人ひとりを大切にしながら、丁寧な仕事を心がけております。





骨にウェーブをかけて季節の花をあしらった
「新和風」の建具シリーズで数々の賞を受賞しています。

石橋建具製作所



石橋建具製作所
所在地/〒831-0026
福岡県大川市三丸600-1
代表者/石橋 正年
TEL0944-87-8462
FAX0944-87-8463
創業/昭和32年
従業員/4名
営業時間/ 8:00~17:30
定休日/日・祝日・第2土曜

社長の石橋さんは銀行員として働いていましたが、30歳の時に父の急死により跡を継ぎ、職人さんたちと二人三脚で急場をしのいできました。以降、技の向上に努め、事務所の片隅には全国建具展示会「国土交通大臣賞」「経済産業大臣賞」「全国森林組合連合会長賞」などのトロフィーや賞状がずらりと並びます。現在つくっている建具のほとんどは内装関係の業者から受注したもので、



TOP VOICE

デザイン性の高いものに限らず一般住宅にあうような商品もつくっており、今後は建売住宅にも手を伸ばすつもりです。



老人福祉施設、学校、病院などの公共施設や旅館、料亭で使われていますが、受賞した商品はこれらと一線を画し、デザイン性の高い商品といえます。得意とするものは、曲線を使って波打ったように見える立体的なデザインに市松模様や梅の花、南天の実などを配した和風モダンなもの。可愛らしさと優しさにあふれ、部屋の雰囲気や和らげてくれる建具です。

このような商品には、若い頃に受けた百貨店系列の建築会社の仕事が生きているのだとか。デザインが細かい上に完成度が高く、また妥協を許さない仕事にすいぶん鍛えられたと、社長は当時を振り返ります。図柄は自らデザインし、CADは使わずすべて手書き。季節の花は下絵を描いた後に知人の職人さんに薄彫りを依頼しています。統一感を大切に、使う場所を考えながらバランスよく製作することを心がけています。



店舗関係のドアや間仕切り、
装飾の建具全般を
手がけています。

————— 石橋建具製作所



石橋建具製作所
所在地/〒831-0005
福岡県大川市向島560
代表者/石橋 智明
TEL0944-86-4876
FAX0944-87-7413
創業/昭和43(1968)年
従業員/3名
営業時間/8:00~18:00
定休日/日曜・祝日



壁一面のガラス窓から明るい日が差す工場。「創業した父が社長で、私と弟はただの従業員」と笑うのは、長男の智明さん。3人それぞれに作業台を持ち、父の悟さんと弟の定さん、そして智明さんの2チーム制でそれぞれに設計事務所などから受注しています。

9割以上は飲食店など店舗関係の仕事。ドアやテーブルの間仕切りなどの建具、店内を装飾する木製の壁などを手がけ、建具屋の看板が上がっているものの、仕事内容は木工業ともいえます。

名の知られた居酒屋やショップの装飾も手がけています。

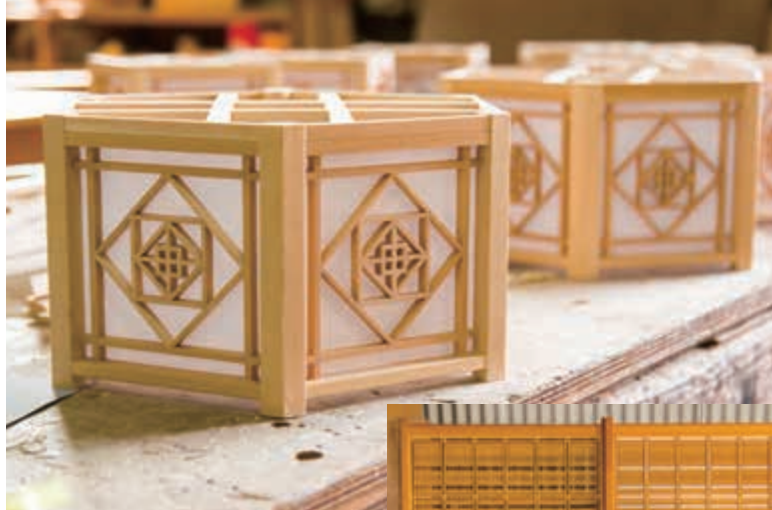
「お客様に可愛がられて、今まで仕事してきました。バリアフリーの丸い個室トイレのような特殊なドアも断らないから、使いやすいんだと思いますよ」と智明さんは話しますが、仕上がりが良く、納期に間に合うからこそ、紹介もあるのでしょう。業者からの信頼が厚いというのも、同社の強みです。

創業50年を迎える父と建具師として20年以上のキャリアを持つ兄弟。つかず離れずの距離で、それぞれの得意分野で腕をふるう3人の「建具」という枠にとらわれない活動に注目したいものです。



TOP VOICE

自ら立てつけに行き、下関、宇部、出雲と遠方まで出かけます。店舗の場合、建物工事が終わり、柱やドアなどの寸法などが決まらなければ、建具の製造に取りかかれませんが、しかし、工事が遅れ、ギリギリの作業になることも。その際は智明さんが請け負った仕事を父、弟に依頼する形で総がかりで仕上げると言います。



「精神を込めてつくった」良い品が九州の業者を通じて全国の居酒屋等を彩ります。————— 植松建具店



植松建具店
所在地/〒831-0041
福岡県大川市小保54-1
代表者/植松 清民
TEL0944-86-2931
FAX0944-86-2931
創業/昭和30(1955)年
従業員/4名
営業時間/8:00~17:30
定休日/日曜日

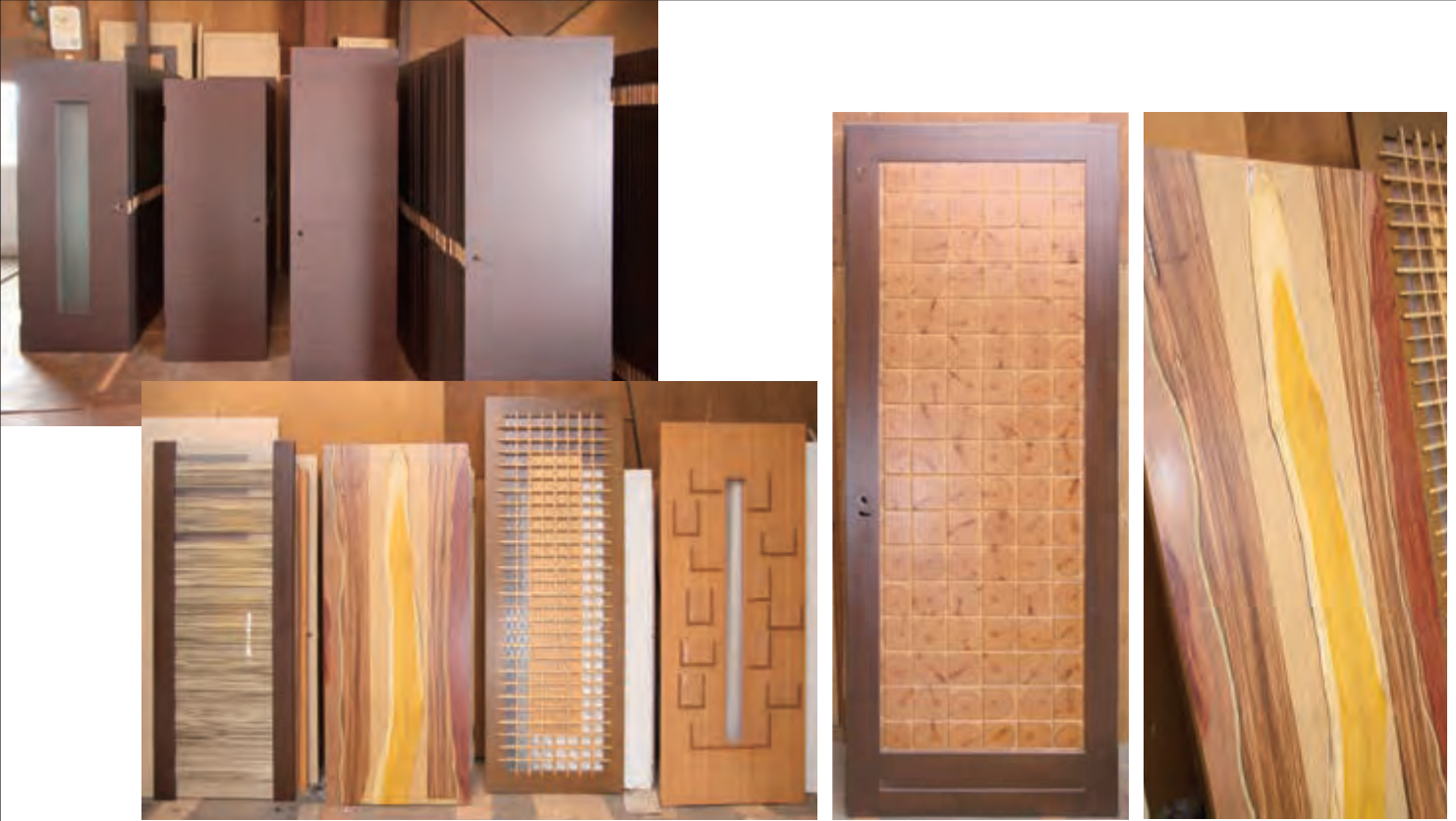
「これは、富山の居酒屋へいくよ」。工場では上がっていく障子を見ながら話す社長。その製品は、九州の内装業者を経て全国チェーンの居酒屋に納品されるのだそうです。同社は父の代から続く建具店。つくる製品は、個人住宅の障子・戸から居酒屋などの店舗に使う建具へとだんだん変化してきました。注文のほとんどは、内装業者や同業の建具店からだといいます。建具は部材が小さく、小ロット。そのため、地方は建具店が減少気味です。しかし、製材所が多く、部材が揃いやすい大川には、建具店がまだ健在。そのため、九州一円から注文がきます。全国チェーンの居酒屋となれば、納品先が九州の業者だとしても、製品は全国各地へ行き渡るといわけです。



TOP VOICE
工場では、社長自ら育てて30年、今や家族同然の職人さんと、跡継ぎとなる息子さんが一緒に汗を流していました。技術だけでなく、社長のモノづくりの心もまたしっかり受け継がれています。



これまで社長は「どこよりも良い製品をつくらなければ…」という思いでつくってきました。「早くて安く、それなりの形に仕上げられることもできます。しかし、それではだんだんと仕事はなくなるでしょう。精神を込めて良い製品をつくるようにしています」。その思いが製品を通じて伝わるからこそ、1つの店舗からまた次の店舗へと注文が続くのでしょう。



ハウスメーカーから依頼の建具を
 抜群のチームワークで効率的に仕上げる。— 有限会社 江頭建具



有限会社 江頭建具

所在地 / 〒831-0041

福岡県大川市小保508

代表者 / 江頭 清

TEL0944-85-8181

FAX0944-87-0477

[E-mail] EGASHIRA@ever.ocn.ne.jp

創業 / 昭和28年

設立 / 平成17年

資本金 / 300万円

従業員 / 4名

営業時間 / 8:00~17:00

定休日 / 日曜日、第2土曜日



創業から半世紀以上、三代にわたり建具づくりの技を継承してきた江頭建具。個人工務店や大工職人からの注文が多かった先代までとは異なり、現在は六割以上をハウスメーカーから依頼の仕事にシフトし全国に広がるマンスリーマンションや賃貸住宅の建具を中心に製作しています。

工場からは梱包が終わった製品が、トラック便で次々に配送されていきます。「ライフスタイルの変化により本格的な和風住宅が少なくなりました。その分、建具屋に求められるものも変わりましたね」と江頭社長。工場



には比較的若いスタッフが多く、「自分が買いたくなる商品をつくりなさい」と指導しています。また、社員同士の親睦を深めるために、食事会や社員旅行を定期的に行っています。「社員全員が効率的な仕事をして、一日も早く仕上げて出荷することを心がけています」。

江頭建具では確かな技術と抜群のチームワークで、次々と製品を仕上げています。



TOP VOICE

集合住宅や学校、老健施設などの公共施設の建具はもちろんこと、別注家具製作も対応いたします。お気軽にご相談ください。

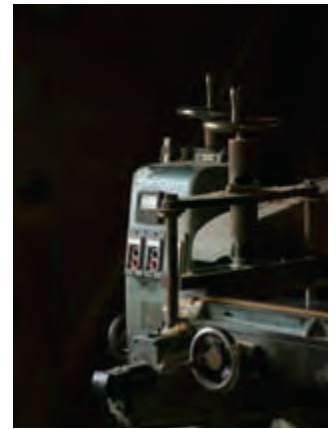


障子や扉などデザイナーの設計を形にすることを心掛けています。————— 木下建具木工所



木下建具木工所
 所在地 / 〒831-0035
 福岡県大川市津416-4
 代表者 / 木下 昭義
 TEL0944-87-2055
 FAX0944-87-2097
 創業 / 昭和37年
 営業時間 / 8:00~17:00
 定休日 / 日祝日

兄が昭和37年に創業した木下建具木工所を引き継ぐ形で営む、代表の木下昭義さん。71歳を迎えた今でも現役で建具を作り続け、組子や骨物などの建具を中心に熊本などのお客様に提供されています。最近で別注物の依頼が多いと話しながら、「障子、扉などの建具をはじめ、木工ならたいがいの物は作りますよ。お客さんに喜んでもらえたら、こっちも嬉しくなるね」と優しい笑顔で教えてくれました。大川市内から仕入れたスギやスプルスなど5種類ほどの木材の中から、建具の種類や使い道、デザインなどに合わせて使い分けます。最近では扉やドアなどの依頼が多いとのこと



とです。「最近では住宅の造りが昔と変わり、幅が広くて高さのある物が多くなってきた。デザイナーの設計をしっかりと形にするように心掛けています」と木下さんは話します。木下さん一人で営まれているので、配送や建て付けは行っていないということなのでご注意ください。



TOP VOICE

体が元気なうちはずっと続けていきますよ。工務店や建具屋さんなどプロからの依頼だけでなく、個人のお客さまからの依頼ももちろん受けています。どんな建具が欲しいのか、納期などを教えてください。出来る限り、ご要望に応じていきたいと思っています。



TOP VOICE

繊細で優美な幾何学文様の組子は、見る角度や光の具合によって、さまざまな表情を見せます。その魅力を少しでも多くの人に知ってほしいですね。洋室に合うデザインもあり、部屋の一部に取り入れるだけでも、大きく印象が変わると思いますよ。

伝統的な建具も、観光列車のインテリアも。

大川で唯一の組子専門の工房です。——— 木下木芸



木下木芸

所在地 / 〒831-0005

福岡県大川市大字向島1037-1

代表者 / 木下 正人

TEL0944-86-6328

FAX0944-86-6328

[URL] <http://kinoshitamokugei.com/>

創業 / 1991年3月

従業員 / 1名

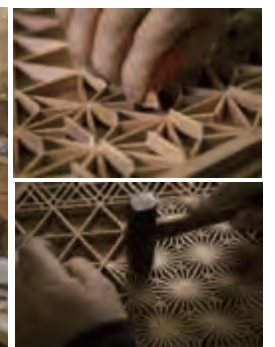
営業時間 / 9:00 ~ 18:00

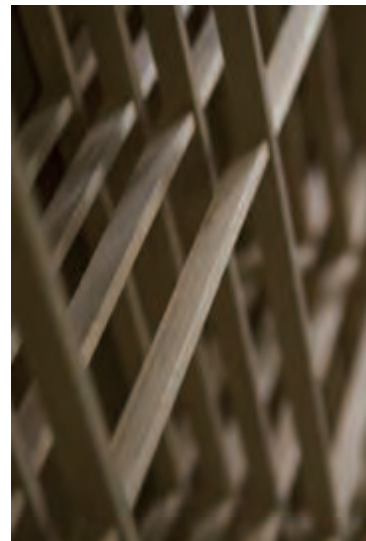
定休日 / 日祝日、第2・4土曜日

麻の葉。八重桜。胡麻殻。200種類を超える組み方で、緻密かつ優美な紋様を織りなす大川組子は、約300年の歴史を誇る木と光の芸術です。建具屋に生まれ育った木下正人さんは、栃木で修行を積んだ後に、組子職人として独立。兄の久雄さんが継いだ木下建具とともに、大川の伝統技術を継承しています。

組子といえば、かつては欄間や書院障子など建具の装飾として使われるものでしたが、生活様式の様変わりに伴い建具の需要が激減。そのとき木下さんは、「時代に合わせて自分が変わっていかねければ」と決意します。以来、積極的に国内外の展示会に出品したり実演を引き受けるなどして、組子の魅力をアピール。同時に、それまでなかった家具の装飾や照明器具などの製作にも取り組むようになりました。

「こだわりは一切ありません。求められるものなら何でもつくり、自分にやれることは何でもやります」。その前向きな姿勢が、組子の可能性を広げました。2013年秋に運行が始まったJR九州のクルーズトレイン『ななつ星in九州』の車内装飾に大川組子が採用され、木下木芸をはじめ大川の木工会社9社からなる『Team OKAWA』として参加。その仕事ぶりが高く評価され、新たな観光列車の内装も手がけることになりました。「求められるものがどんどんレベルアップして大変ですが、100%の期待に120%で応える意気込みで取り組んでいます」。よいものをつくるためには横のつながりが大切だと力説する木下さんは、同業者や異業種仲間との活動にも積極的。また後継者を育てたいという思いから、地元の高校生への技術指導にも熱心に取り組んでいます。





建具からその他まで、何でもご相談を。

新しいことにチャレンジしていきます。—————木下木工所



木下木工所

所在地 / 〒831-0026
 福岡県大川市三丸764
 代表者 / 木下 敏
 TEL0944-86-4440
 FAX0944-88-1753
 創業 / 昭和10年
 従業員 / 2名
 営業時間 / 8:30~18:30
 定休日 / 日曜日

戦前からこれまで3代に渡って技術が受け継がれている木下木工所。国産のスギやカナダ産のスプルースなどを使い、障子など和室の建具を中心にしながら、フラッシュ加工のドア、金具、吊り戸など建具全般の製造販売を行なっています。

「和の建具は触った時の感触が良く、ぬくもりがあります。施主さん、大工さんとよく話し、素材や風合いなど希望にあった建具を作ります」と3代目の木下さん。一級技能士だけに確かな技術を持っています。もちろん、リフォームにも



対応。その際、最優先で大事にしているのが、「お客様の使い勝手」と言います。これまで以上に使いやすく、便利になることを細部にまで考えて

建具などを仕上げていくのです。

最近では職人の技を生かして、ティッシュケースを製造。これまで培ってきた技術と積極的に新しいモノに取り組む気持ちが生み出しました。「建具に限らず、木のぬくもりが感じられる小物にも積極的に取り組みたい」とのことです。



TOP VOICE

職人の確かな手作業で本当に良いモノを作り上げ、長く使ってほしいと思っています。オーダーメイドにも応え、上質な生活必需品をお届けしたいと考えています。建具をはじめ、いろんなことに対応したいと考えていますので、まずご相談ください。





「つくりたい人の気持ち」を大切に
注文住宅の木製建具を
つくっています。

古賀住建工作所



古賀住建工作所

所在地 / 〒831-0034

福岡県大川市一木460-1

代表者 / 古賀 猛

TEL0944-86-7092

FAX0944-86-7101

創業 / 昭和55(1980)年

従業員 / 2名

営業時間 / 8:00 ~ 19:00

定休日 / 日曜



同社は、建設会社を通して個人住宅の障子やふすまなどを製造しています。今、住宅の多くはハウスメーカーが建て、既製品の建具を使いますが、同社の取引先は何代も続く昔ながらの大工さんの雰囲気、注文住宅がメイン。木の良さを知っているため既製品を使わず、木にこだわった製品を注文されるといいます。

取引先との付き合いは30年にわたり、その信頼は古賀社長の人柄と技術によるものでしょう。自ら打ち合わせに行き、取引先から相談を受けることもあります。専門的な意



見を求められるため、正直な気持ちで答え、お互いにとってベストな製品をつくるようにするのだそうです。

社長が大事にしていることは「つくりたい人の気持ち」。施主や設計士、取引先の気持ちを汲み、その思いにできるだけ応えたいといいます。「予算に合わなければ残っている材料でつくったらどうか」という人もいますが、工賃をもらうだけの仕事はしたくありません。気持ちに添うには、どうすればいいか。困ったときは「川口二十日会」の仲間をはじめ同業に相談します。大川には腕の良い職人が多く、自分ができなくても誰かができるのが大川の強み。信念にも似た社長の思いを汲んでくれる仲間にも助けられ、既製品に負けない製品をつくっています。



TOP VOICE

私はぶっさらぼうで、取引先の会長と食事してもお世辞を言わず、酒を注いで回ったりもしません。かえってそれが信頼につながっているのかもしれないね。



誠心誠意仕事に取り組み

先代から続く得意先との絆を守る。————古賀建具製作所



古賀建具製作所

所在地/〒831-0035

福岡県大川市津701-5

代表者/古賀 博実

TEL0944-87-8267

FAX0944-87-8267

創業/昭和40年

従業員/2名

営業時間/8:00~18:00

定休日/日曜日

古賀建具製作所は現社長の父が40年ほど前に創業。マンションや老健施設、病院、学校などのドアや入り口扉などの建具を中心に製作しています。

例年、年度末に向けての2月から3月にかけての時期が繁忙期となり、休む暇もありません。また、小学校や中学

校が夏休み・春休みなど長期休業に入ると、学校向け建具製作の注文が多くなります。工場内での製作作業だけでなく、時には社長自ら現場での施工に向きます。

「大川の建具屋は横のつながりが強い。忙しくて手がまわらない時は同業者に助けてもらっています」と古賀社長。先代からの付き合いの取引先も多く、30年以上にわたって



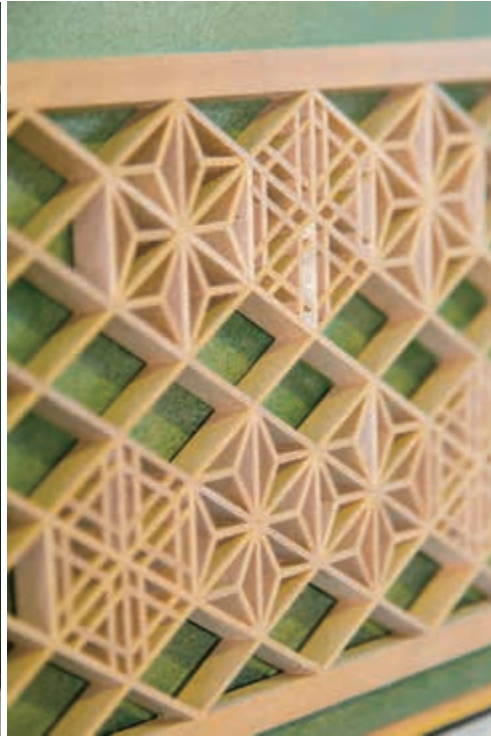
信頼関係を築いています。

「どんなに忙しくても、長いお付き合いのお客様からの注文は断るわけにはいきません」。社長の誠実な人柄で得意先との絆を守り続けています。



TOP VOICE

2人だけの小さな建具製作所ですが、お客様との長いお付き合いを願い誠心誠意仕事に取り組んでいます。



表裏でデザインを変えたモダンな建具から

下駄箱の前扉までオールマイティにつくる。——古賀建具店



古賀建具店

所在地/〒831-0031
 福岡県大川市上巻36
 代表者/古賀 英敏
 TEL0944-86-3240
 FAX0944-87-1951
 創業/昭和30年
 従業員/1名
 営業時間/9:00~18:00
 定休日/日曜・祝日



和風に、リビングや廊下側には板を貼ったり、格子模様にして洋風に、というふうによ望に応じて和洋のデザインを使い分け、光が欲しい部屋に置く場合はガラスを入れることも。座ったときの目線を意識し、実用性と強度、美しさのバランスを見ながら、

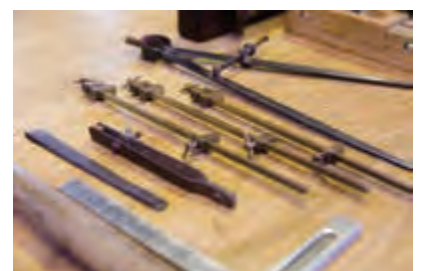
和室とリビングや廊下を仕切る障子や、ガラス戸、ドアなどをつくり、その多くは店舗や寺院に納品されています。材が変われば部屋の印象も変わるため、施主や大工さんらと話し合いながら材やデザインを決めます。和室側には和紙を貼って

丁寧にづくっていくといひます。ほとんどが手作業のため、商品のほとんどは受注生産です。「うちの強みといへば、オールマイティであることかな」というように、建具のジャンルに入るものは何でもつくるといひます。子どもが喜ぶようなものから本格的な建具まで幅広く扱っているのが特徴です。



TOP VOICE

手が空いているときは、組子やパズルなどもつくっています。





建築士やデザイナーからも注目。
若い世代を牽引する特注建具の匠。—— 坂井建具製作所



坂井建具製作所
所在地/〒831-0005
福岡県大川市向島2052-9
代表者/坂井 貴之
TEL 0944-86-2716
FAX 0944-86-2790
[E-mail] sakai.tategu@gmail.com
創業/昭和16年(1941年)
従業員/5名
営業時間/8:30 ~ 18:00
定休日/日曜



1941(昭和16)年創業の坂井建具製作所で、3代目を務める坂井 貴之さん。1973(昭和48)年生まれの若き代表です。ここ10年くらいは建築設計事務所からの依頼が多く、飲食店や美容室、宿泊施設などを手掛ける建築士がオーダーする特注建具を得意としています。

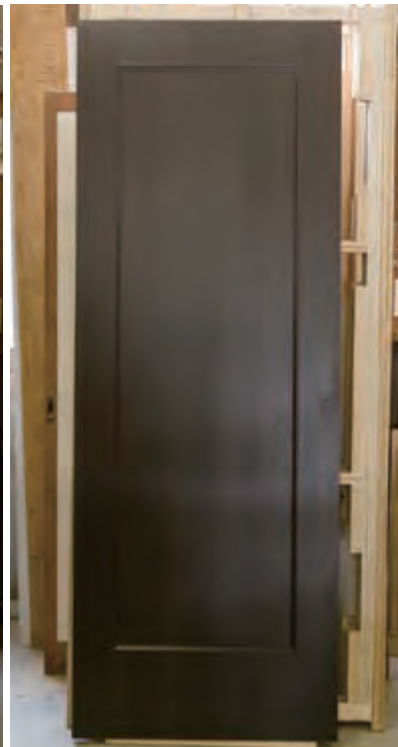
「一つひとつ製作内容が異なる特注建具は、既製品建具と違って難しいものばかり。しかし、それらを試行錯誤しながらつくり上げることが、自分たちの技術向上にもつながっていると思います」と坂井さん。建築士やデザイナーの要望に応えるセンスや技術力もさることながら、毎年11月には1年分の吉野

スギを現地まで自ら買い付けに行きます。坂井建具製作所でつくられた扉の内部には、紙製のフェザーコアを芯材として採用。「店舗や宿泊施設などは不特定多数の方が訪れる場所なので、安心して使っていただけるよう面の広さに関係なく補強しています」。扉が完成したら隠れてしまいますが、見えない部分にも一切の手抜きはありません。坂井さんは20歳で父、29歳で祖父を亡くしたため、身に付けた知識と技術は独学と大川建具事業青年部で教わったことによるものが多いそうです。「自分が教わってきたように、若い世代に恩返しをしていきたいです」と、現在は大川建具事業青年部木建会の会長として後進の育成にもあたっています。



TOP VOICE

どんな要望があっても断らず、手探りでチャレンジしながら応えるようにしています。困難なオーダーも多いですが、何事も成長していくためのいい経験です。これからは自分が学んできたことを、若い世代に伝えていきたいですね。



フラッシュドアを中心にした建具づくり。

納得のいくまでが身上です。—————重富建具製作所



重富建具製作所
所在地／〒831-0005
福岡県大川市向島737
代表者／重富 美知子
TEL0944-87-2054
FAX0944-87-2054
創業／昭和20年
従業員／1名
営業時間／8:00～17:00
定休日／日曜



祖父の代から建具をつくり、祖父、父が亡くなった今、孝さんが跡を継いで建具づくりを続けています。今は住宅向けのフラッシュドアを中心に、障子やドアをつくり、工務店などに納めています。
注文は電話やFAXで届き、設計図がなく寸法だけ知らされるものもあります。それらを



TOP VOICE

父が亡くなったのは高校生のとき。建具づくりを学ぶ機会がなかったため、卒業後は家具メーカーに勤めました。母や叔父を手伝うため建具の世界へ移り、建具組合の青年部に入って同世代や先輩たちに技を教わりながら腕を磨いてきました。



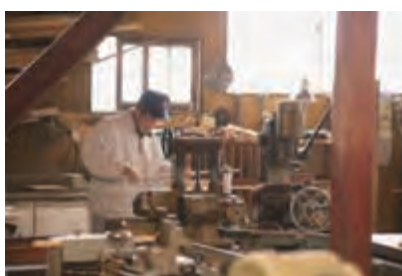
材の切れ端に書きとめ、自分で図を描いて完成イメージに向かって黙々と作業していきます。「跡を継ごうと思ってやったわけじゃない」というものの、モノづくりが好きで、先代から職人気質を受け継いだのでしょう。営業時間はあってないようなもの。作り出したら納得のいくまで手が止まらず、深夜まで作業が及ぶこともあるとか。納期に間に合うように仕事は早めに進め、1日に10枚のドアを仕上げることもあるといいます。
工場の床にチリーつないのは、機械を回すごとに掃いているから。「珍しいことじゃないですよ。外食に行って、汚いところで食べたくないでしょう?」と話す孝さん。出展して受賞する派手さはないものの、綺麗な工場で綺麗な商品をつくり出す。誠実な思いでお客様の希望通りの商品をつくり出す。それが同社の特徴です。



全国建具展示会に10回出品し、すべて入賞。
うち自信作2点が、法泉寺の和室に。—— 渋田建具製作所



渋田建具製作所
所在地/〒831-0004
福岡県大川市榎津524-4
代表者/渋田 重幸
TEL0944-87-0555
FAX0944-87-0555
創業/1969年
従業員/2名
営業時間/8:00~18:00
定休日/日祝日



渋田重幸さんが10年間の修行の後に、25歳で創業した渋田建具製作所。かつては書院欄間が専門で、最盛期は月に40セットもつくるほどの忙しさでした。伝統的な建具は減りつつありますが、建具に対する渋田さんの情熱が衰えることはありません。「建具にとって何より大切なのは素材ですね」。そう話す渋田さんは、納得のいく材料をそろえ、木を読みながら適材適所の木取りをし、気持ちを集中させてからつくり始めます。「バタバタくっつても、よいものはいけません。じっくり時間をかけないと」。それが、渋田さんの持論です。



全国建具展示会にも意欲的に出品しています。「一度も落ちたことがないのが自慢」との言葉どおり、10回出品したすべての作品が入賞。そのうち、2006(平成18)年開催の徳島大会で最高賞の経済産業大臣賞に輝いた組子入間仕切戸と、2012(平成24)年の福岡大会で福岡市長賞を受賞した間仕切戸は、渋田建具製作所からほど近い法泉寺に寄贈され、訪れる人を魅了しています。

横から見るとウェーブが表れるなど、独創的なデザインの源は、日ごろから美術展などに足を運んで感性を磨くという志の高さにあります。個人客だけでなく同業者からの注文も多い渋田建具製作所。多くの建具仲間が信頼を寄せています。



TOP VOICE

ベテラン職人2人で、お客さまに喜んでいただける仕上がりを中心に、真剣に建具と向き合っています。賞をたくさんとっているから高いのではないかと問われがちですが(笑)、ご予算に応じてつくりますので、安心してご用命ください。



50年以上の技を生かし、障子を中心に 同業の建具店からの注文に応じています。—— 渋田建具店



渋田建具店

所在地 / 〒831-0041
 福岡県大川市小保637-1
 代表者 / 渋田 憲明
 TEL0944-88-1739
 FAX0944-86-4783
 創業 / 昭和35年(1960年)
 従業員 / 3名



2代目で社長の定二さんと跡取りの憲明さん、職人さんの3名で障子などの建具をつくっています。

「狭い工場にこげん大きか特注品が来て、置くところがなくて困ります」と笑って話す社長。見るとそこには、2mほどの背の高い障子が並んでいました。



TOP VOICE

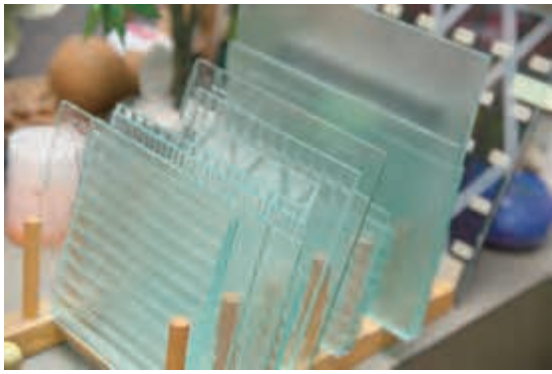
多種多様なデザインでも対応できるよう工夫し、全て手作業で建具を仕上げています。

注文の多くは同業の建具店から。高さが8尺あるような大きい障子や、下半分の棧を上げ下げできる雪見障子、棧の数の多い洋風のもの、組子を取り入れたデザイン性の高いものなどを、建具店の従業員が作業着のまま相談に来ると言います。

設計士が書いた図面はそのまま作れないことも多く、設計し直して完成イメージ図に向かって腕を動かしていきます。設計は、すべて頭の中。そこには、55年にわたる職人技が生きています。

モットーは「一に納期、二に単価」。とはいえ、すべて手作業のため量産できず、できた建具はほぼ一点もの。組子の部品も手づくりしており、「納期と単価」は努力と工夫の賜物といえましょう。最近は和紙だけでなくワーロンという新素材を使う建具もあり、「世の中の変化に合わせて作っていく」とも。「年だから、もう出来ん」と笑う社長ですが、探求心はまだ衰えていません。





早くて細やかな対応と確かな技術で 大川の建具づくりのお手伝い。—— 有限会社 大龍サッシ・ガラス店



有限会社 大龍サッシ・ガラス店

所在地/〒831-0045

福岡県大川市大野島1389-1

代表者/龍 孝昭

TEL0944-88-3380

FAX0944-87-1538

創業/平成2年

設立/平成9年

資本金/ 300万円

従業員/ 2名

営業時間/ 8:30~18:00

定休日/第2・4土曜日、日祭日

住宅の新築・増築の際にいれるアルミサッシや建具・別注家具のガラスがメインです。建具に合わせて加工し、取り付けます。大量に発注されることは少なく、建具のデザインや用途によってどんなガラスを使ったら良いのかを、お客様と一緒に考えます。住宅用のサッシと違い建具のガラスは色々なデザインがあり、色々な種類のガラスが使えるので仕事として面白く、ガラス職人の腕の見せ所と言えます。ものによっては出張して現場で建具にガラスをはめ込むこと



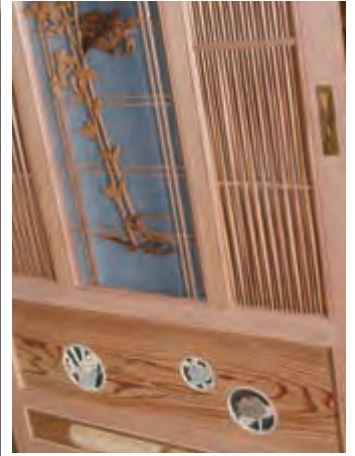
も少なくなく、図面でサイズを確認していても現場で若干異なる場合もあります。現場で加工しながら大きなガラスを狂いなく建具に納めるのはやはりガラス職人の技術の見せ所。大川の職人さんたちがつくった素晴らしい建具を台無しにしてしまわないためにも注意を払います。

これから、もっと職人同士の結びつきを大切にしながら、大川の建具づくりのお手伝いをしていきたいとのことです。



TOP VOICE

日本人の住まいや暮らしが変わるように、ガラスも大きく変わってきました。機能性を重視した規格住宅にはめ込むだけのサッシもあれば、職人の技術を行かした伝統的な硝子やアート感覚が問われるスタンドグラスなど建具に合わせて特別につくれるガラスもあります。ガラス職人として、これからも信用と信頼を育てていきたいと思ひます。



建具や家具で暮らしを彩る 住空間のトータルプランナーとして。

有限会社 竹下建具工芸



有限会社 竹下建具工芸

所在地/〒831-0034

福岡県大川市一木733-1

代表者/竹下 直哉

TEL0944-87-8580

FAX0944-87-1182

[URL] <http://www.takeshita-tategukougei.com>

[E-mail] info@takeshita-tategukougei.com

創業/昭和33年

設立/平成63年

資本金/1,000万円

従業員/18名

営業時間/8:00~17:00

定休日/日曜日、第2・4土曜日



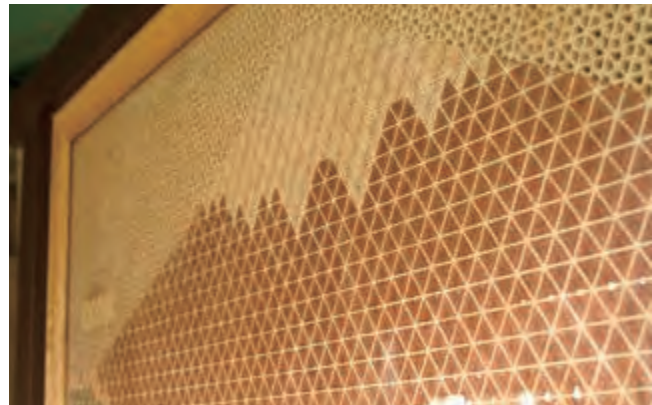
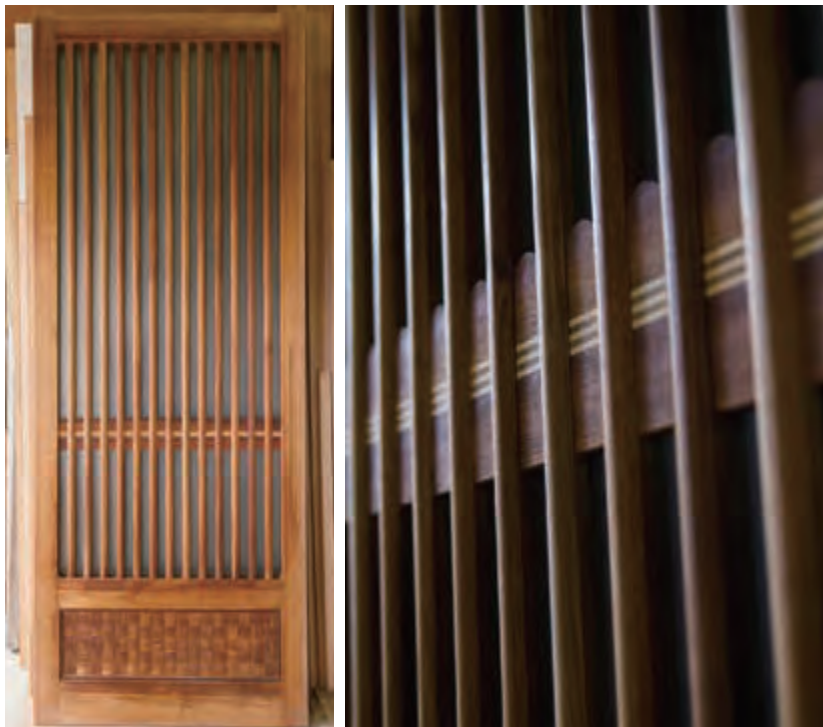
竹下建具工芸は木による快適な住空間づくりのトータルプランナーとして、個人住宅からマンション、学校や病院などの公共施設に別注家具や建具を提供しています。取引先はゼネコンや木工事会社、内装業者をはじめ、九州外のお客様から一般住宅向け建具や別注家具を依頼されることも少なくありません。「施工も自社で行うため関東地方在住のお客様から依頼された仕事では新築住宅の木工事をすべて請負いました」と竹下社長。毎年開催される全国建具展示会には積極的に作品を出品。独創的な作品

で毎回入賞を果たしています。デザインや仕様のアイデアは社長の奥様の担当です。「実用性に優れているだけではなく、室内のインテリアとして楽しめるものや見て楽しいものを作りたいのです」。今後も突板や大川組子などを扱う地元大川の職人とのコラボレーションで、新しい建具づくりにチャレンジしたいと意欲的です。



TOP VOICE

私たちが目指すものづくりは、お客様に長く使っていただけるもの、ご満足いただけるものを提供することです。建具づくりを通じて、お客様の自己表現をお手伝いします。



「木が立っているように材を生かせ」父の言葉を胸に
提案力と丁寧さでより良い品を提供。—— 角建具製作所



角建具製作所

所在地/〒831-0024

福岡県大川市大字鬼古賀150-2

代表者/角 明成

TEL0944-87-3790

FAX0944-87-7816

[E-mail]sumitate@jupiter.ocn.ne.jp

創業/昭和42(1967)年

従業員/4名

営業時間/8:00~17:00

定休日/日曜・祭日



父が創業し、角社長は2代目。工務店や大工さん、同業の建具店から注文を受け、個人住宅の建具全般を製造しています。たまに公共的な建具もあり、博多にある「博多千年門」の一部も手がけました。

父は全国建具展示会で「内閣総理大臣賞」を受賞するほどの腕前。しかし社長は技術を父ではなく、兄弟子から習ったといい、それはまた職人として歩き出した息子への愛情だったのも知れません。80歳になった今も現役で建具のデザインをし、全国展示会に出品する作品をつくる父。言葉数の少ない



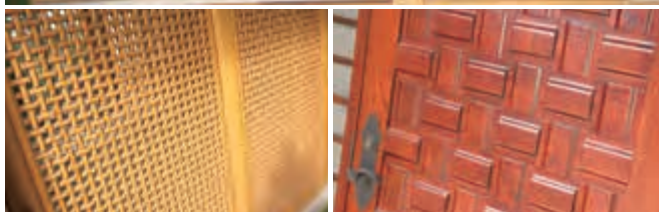
中にも心に残っている言葉があります。「木が立っているように材を使え」。木には表裏があり、適した部分に使うように教わりました。塗装をしてしまえば、木目がわからなくなることが多い建具ですが、同社は木の性質をつかみ、木の良さを生かす工夫をしています。

大切にしていることは、お客様の気持ちを汲んでつくること。使う人の気持ちを考え、もっと良くなる方法を思いついたら提案するようにしています。建具だけの設計図だけでなく、家の完成図を見て全体のバランスを考え、使う人の気持ち、設計士の思いを汲んでより良い提案をし、より良い商品をつくっていきたくと考えています。



TOP VOICE

自分が思い描くイメージを完璧に表現できる作品をつくり出すのはなかなか大変です。そのために、ものの捉え方、考え方、素材の見極め方などを含め技術の研鑽は常に怠ることができません。これからももっと追求していきたくと思います。



TOP VOICE

建具だけで生き残っていくのは大変だと思いますが、当社はこれからも建具一筋でやっていきます。先代の意思を引き継いで、ベテランと若い力を融合して頑張っていきます。



若いスタッフの感性と機動力を強みに、 CADを駆使した完成度の高い建具を。

— 有限会社 堤建具工業



有限会社 堤建具工業

所在地 / 〒831-0043

福岡県大川市大字新田995-2

代表者 / 堤 健雄

TEL0944-87-3507

FAX0944-87-3557

[E-mail] tutumi@orion.ocn.ne.jp

創業 / 昭和50年10月

設立 / 昭和62年10月

資本金 / 500万円

従業員 / 11名

営業時間 / 8:00~17:00

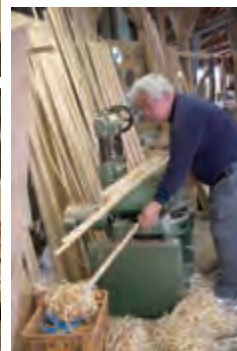
定休日 / 第1・3土曜日、日曜日

堤建具工業の事務所に掲げられた、輝かしい賞状の数々。全国建具展示会での受賞歴が、そのデザイン力と技術力の高さを物語っています。「出展するのは、若い人たちに技術を継承するためです」。そう話す堤社長が率いるのは、ベテランに加えて20～30代の若いスタッフたち。CADで図面を引き、確かな技術で建具をつくる。そんなチームワークで製作に取り組んでいます。福岡にマンションが建ち始めた時代から、いち早くマンションの建具製作を一手に引き受けてきた同社。最近では介護施設や幼稚園、病院などの建具が多くなってきたと



いいいます。「クローザーなどの金物は進化が目覚ましいので、最新の製品情報を把握しておくよう心がけています。また、建物や暮らし方も変化し、お客様のデザインや機能性に対するニーズも多様化しており、新しい提案力も必要となっています」。

お客様の要望に応えるだけでなく、よりよいものを提案できる対応力と、仕事を任せられる安心感が、堤建具工業に対する信頼につながっています。



4代目を継承する堤社長が語る「ネットワークを活かして、これからも建具一筋で」という言葉には、さらに建具を究めていきたいという願いが込められているでしょう。



建具製作に携わり90年。
高い品質で
得意先との信頼関係を築く。

——— 有限会社 鶴建具本店



有限会社 鶴建具本店

所在地/〒831-0042

福岡県大川市九網310-1

代表者/鶴 剛志

TEL0944-86-2838

FAX0944-86-2848

[E-mail] tsurutategu@ac.auone-net.jp

創業/大正14年

設立/昭和47年

資本金/500万円

従業員/9名

営業時間/8:00~17:00

定休日/日曜・祭日



鶴建具本店の創業は大正14年。現社長の祖父が建具屋を始めてから、建具製作一筋90年という長い歴史を誇ります。

同社は戸建住宅用の個別対応の建具製作から、マンションや公共施設などに用いる量産型建具及びトイレブースに至るまで幅広く対応。取引先は県内外の内装業者や工務店で、現在は老健施設や学校、幼稚園などの建具を中心に製作しています。「当社のモットーは品質、納期、単価をしっかり守ることです。これは常にスタッフにも言い聞かせています」と鶴社長。完全受注生産ということもあり、月ごとの生産量に大きな波が生じるため、繁忙期と閑散期の生産調整やスケ



ジュール調整を行いながらバランスを図っています。鶴社長は建具職人として製作に携わり、図面を見ながら他の職人たちと工程や製作方法について打合せます。「品質を守ることが何より大切です。高い品質を守り続けなければお客様との信頼関係は築けません」。

完成した製品は出荷前の厳しい検品を経て得意先へと納入されています。



TOP VOICE

お客様に信頼され、仕事を任されるのが一番の喜びです。建具に関しては、何でも対応できると自負しております。お気軽にお問合せください。

真新しい家に寸法違いのない建具を届ける喜び。

建具が入ってこそ家は家らしくなります。—— 永尾建具製作所



TOP VOICE

真新しい住宅にピシヤリとはまった建具を見ると、ホッとすると同時に嬉しさも感じます。この仕事にやりがいを感じるときでもあります。



永尾建具製作所

所在地/〒831-0041

福岡県大川市小保240

代表者/永尾 昭夫

TEL0944-87-5672

FAX0944-87-5801

創業/昭和54(1979)年

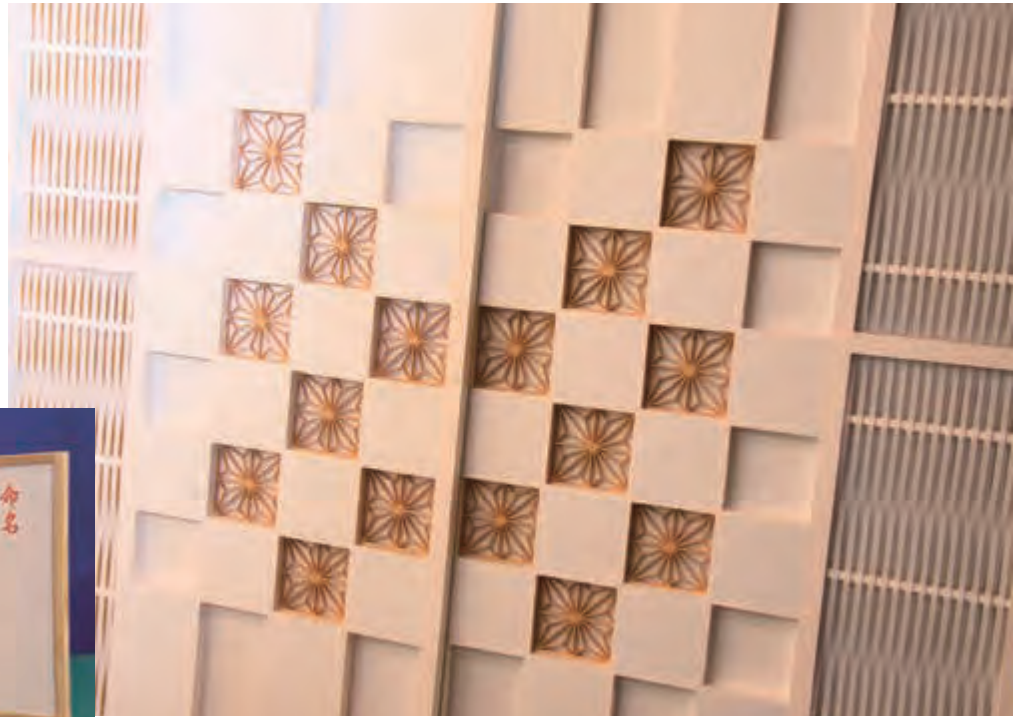
従業員/3名



創業して36年。長男の昭夫さんが創業し、次男の邦夫さん、三男の栄二さんとともに兄弟3人でフラッシュドアや戸などをつくっています。同業の建具店からの注文が多く、熊本や久留米などからも注文が来るのだとか。地元・大川の材木店から材を仕入れ、設計通りに仕上げたら、筑後圏内には立ってつけにも行っています。

近年、和室を設ける住宅は減ってきましたが、やはり住宅に建具は必須。「建物が出来上がっていても、建具がないと寂しい。建具を入れてやっと家が家らしくなりますよ」と、社長は言います。玄関ドアによって家が顔を持ち、室内ドアの開閉によって空気が動き出す。住む人々のアイデンティティをも表す建具は、小さな存在ながら大きな役割を担っているのです。





新しい取組みにチャレンジして 建具の可能性を広げる。

中村建具襖製作所



中村建具襖製作所

所在地 / 〒831-0005
福岡県大川市向島1222-5
代表者 / 中村 政吉
TEL0944-86-5080
FAX0944-86-3087
[URL] <http://nakamura-tfs.net/>
創業 / 昭和25年
従業員 / 3名
営業時間 / 8:00~18:00
定休日 / 日祝日、第2・4土曜日



中村建具襖製作所は、建具製作をはじめ、襖工事、表装、クロス貼りやカーテンの取り付けといった内装工事を行っています。取引先は九州一円の工務店や建具店などで「最近では設計士の方の依頼で、飲食店などの内装の仕事が増えました」と語るのは三代目にあたる中村政一郎さん。一級表装技能士、一級建具製作技能士の資格を持ち、襖の張替えや和紙貼り、掛け軸や屏風



TOP VOICE

お役に立てることがあれば何でもチャレンジします。さまざまな業界の方とのコラボレーションを楽しみにしています。

の製造・修復など、和紙や紙を巧みに取扱う技術を得意としています。また、製作だけではなく高齢化により現場での取付けが困難になった同業者に代わり建具取付けも行います。「建具業界に限らず色々な業界の方と知り合うなかで、新しい可能性が広がればと考えています」。フェイスブックによる情報発信をはじめ設計士や組子職人とのコラボレーション、さらには家具と和紙を組み合わせた商品開発にも意欲的に取り組んでいます。



古いふすまの貼り替えから 新品製造までふすまひと筋。

西村 襖



学校を卒業して地元の建具屋に弟子入りした西村社長。5年間修行し、実家に戻って父の襖製造を手伝い始めました。以来、40余年、ふすまひと筋で身を立てています。同社はこれまで公団や官舎のふすまをつくってきましたが、この数年は寺院や旅館のふすま張り替えの依頼が増えています。



西村 襖

所在地 / 〒831-0008

福岡県大川市鐘ヶ江433-4

代表者 / 西村 伸吾

TEL0944-87-3338

FAX0944-87-3408

[E-mail] fusuma.nishimura@jupiter.ocn.ne.jp

創業 / 昭和20(1945)年

従業員 / 2名

営業時間 / 8:00 ~ 17:00

定休日 / 土曜、日曜



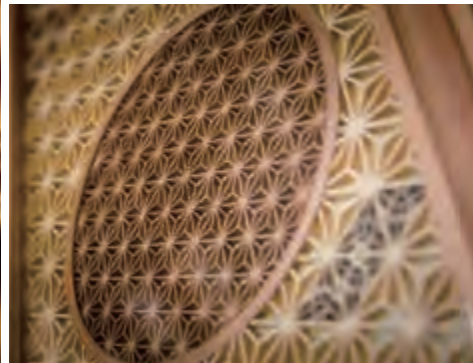
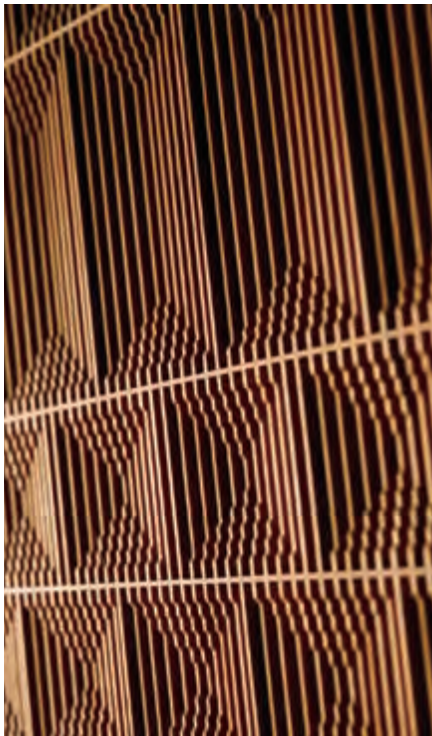
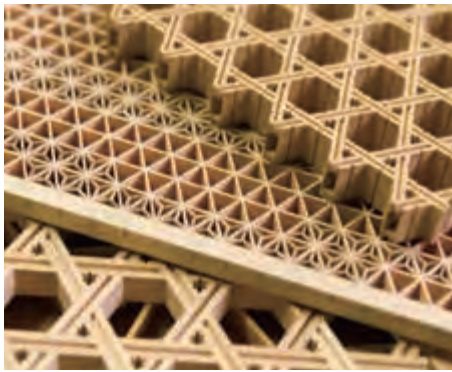
TOP VOICE

古い襖を張り替える時、下紙には昔の帳簿や土地台帳が使われていることもあり、中には安政3年の文字もあってとても興味深いです。先人たちがどのようにふすまをつくったのか、勉強になります。

寺院は数十年ごとにふすまを張り替えるそうですが、今はそれができる業者が減っており、同社の出番となるわけです。

張り替えは、寺院から古いふすまを引き取り、紙を一枚一枚剥いていきます。ふすまは糊で何重にも紙が貼られており、丈夫な紙のため丁寧にすれば、破れることなく綺麗に剥がせるといいます。

新しいふすまづくりは30年以上のキャリアを持つ2人の職人に任せ、社長は古いふすまの張り替えが中心。古いふすまを介して、先人の職人と会話をしている社長です。



創業60年、家族三代続く建具製作所、
 良いものをさらに良いものへ変えていきます。— 仁田原建具製作所



仁田原建具製作所

所在地 / 〒831-0005

福岡県大川市向島924-6

代表者 / 仁田原 進一

TEL・FAX 0944-86-4302

[URL] <http://www.nitaharatategu.com/>

[E-mail] info@nitaharatategu.com

創業 / 1951年8月

営業時間 / 8:00~18:00

定休日 / 不定休

(お越しになる時はお電話でも確認お願いします)



ここでは、約300年続く大川組子の伝統の中で福岡県現代の名工の遺伝子を受け継ぐ建具製作所です。組子の加工は、非常に繊細な技術が必要とするため、0.001ミリ単位を感覚で判断しなければならないとのこと。計算され尽くしたデザインに合わせ精密な角度に、長年の経験でしか得られない職人の腕と感覚で生み出されます。釘を一切使わない組子細工において、仁田原建具製作所では積極的に新しい手法を取り入れながらも、職人の感覚が要となる部分では妥協を許さない独自の手加工技術を用いてさらに良いものへと日々ものづくりを進化させています。

材料選びにもこだわりがあります。5年以上

TOP VOICE

お客様からいただいたご注文の内容に添って、製作用の図面を起こします。ご希望に合わせて様々な図柄が製作出来ますので、気軽にご相談ください。弊社の作品を選んでいただいたお客様と共にこれからも歩んでいくんだという強い思いを持ち、いつでも頼りにしていただける場所をご用意していきたく思います。

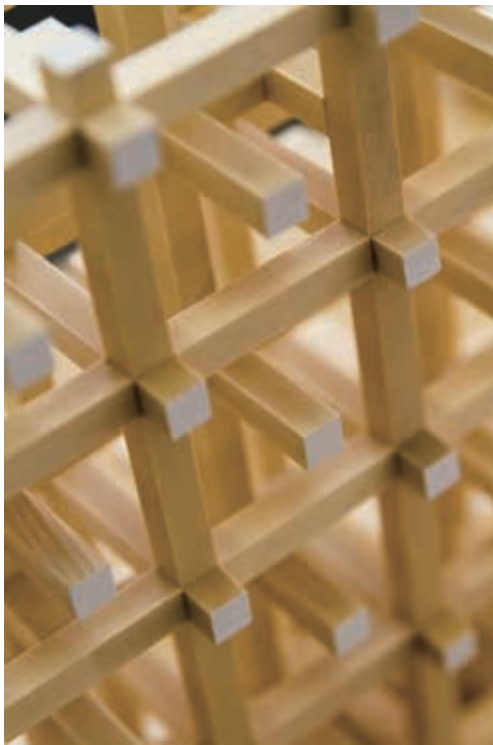
自然乾燥させた材木などを選別。中には樹齢300年にものぼる天然の檜を使うこともあるそうです。組子の制作は、使用する木材が硬すぎても柔らかすぎてもピタリとはまらないため、木の性質と特性を知りつくした熟練の技を必要とするそうです。伝統の技術が次々と途絶えてしまう中、初代が必死に積み上げてきた経験と伝統を、大切に守り続け、新しい型の考案や技術の向上を目指していきます。





TOP VOICE

長年の建具製作で培った技術を礎に、新しい素材に対する研究心を積み上げ、今後もお客さまに満足していただけるものをつくっていききたいですね。壁でも天井でも、木を使うものであれば何でもつくり、呼んでいただければどこへでも出向きますよ。



建具や造作家具の製作から、内装全般まで。

独自の技術『立体組子』を活用した製品も。(株)前田建具製作所



株式会社前田建具製作所

所在地 / 〒831-0005

福岡県大川市向島2014-6

代表者 / 前田 英治

TEL 0944-87-5231

FAX 0944-87-7193

[URL] <http://maeda-tategu.com/>

[E-mail] info@maeda-tategu.com

創業 / 1991年3月

従業員 / 5名

営業時間 / 平日 9:00 ~ 18:00

定休日 / 日祝日

「創業当時は建具専門だったんですが、いつしか造作家具もつくるようになり、今では内装全般まで手がけることも多くなってきました」。そう話すのは、前田建具製作所2代目の前田さん。事務所の内装も、工場の大きな扉や階段も、すべて自社製です。

これまで住宅・マンション・店舗・事務所・病院・公共施設など、数多くの現場に携わってきました。なかでも住宅に関しては、大手ハウスメーカー、輸入住宅メーカー、設計事務所、工務店、大工さん、そして個人のお客さまからも高い評価を得ています。

全国建具展示会で数々の受賞歴を誇る建具は、直線的なデザインが印象的。和風でありながら、どこか洋風な香りも漂わせて



います。「建具材はスギやヒノキが一般的ですが、高級志向のお客さまに対してはウォールナット材やチェリー材などの家具材を使うこともあります」。そう話す前田さんの「建具の格」を重んじる姿勢は、建具本体だけでなく、レバーハンドルや取っ手などの金物、レールや戸車などの部品選びにも表れています。

数年前に、「今までにないもの、何か変わったものをつくりたい」という思いから生まれたのが『立体組子』。実用新案登録と商標登録を済ませ、製品開発や販路の開拓に向けて動きだしたところで。



カンナの刃を研ぐ手間などを
惜しまない職人氣質が
同業に喜ばれています。

松島建具工芸



松島建具工芸

所在地 / 〒831-0044
福岡県大川市紅粉屋22-2
代表者 / 松島 喜富
TEL0944-86-6830
FAX0944-86-6830
創業 / 平成7(1995)年
従業員 / 3名
営業時間 / 8:00 ~ 18:00
定休日 / 日曜・祭日



「昔、職人は皆、丁稚奉公のように住み込みで働いたものです」と、話す松島社長。社長も15歳から建具店に住み込みで腕を磨き、後に独立して創業したといいます。同業の建具屋からの注文が多く、一般住宅や店舗の障子、フラッシュドアを含むドア類などを製造しています。材は福岡で開かれる市などに出かけて丸太1本を競り落とし、問屋で預かってもらって乾燥させ、必要な分だけ工場に届けてもらっています。

60年以上のキャリアの中で大事にしてきたことは、時間をかけて丁寧に仕上げること。例えば他社が1日に10枚つくってれば、松島社長は8枚に抑え、1枚に少しでも多くの時間をかけています。凝ったデザインならまだしも、格子の障子もそうです。

では、どこに時間をかけるのか？ それはカンナの刃といった、商品には表れにくい部分です。カンナの刃を研ぎ、あたりのいい刃で最後の仕上げをすると、見た目が美しく仕上

がります。ほんのちょっとした部分であり、気にしないお客様もいるでしょうが、松島社長の気がすみません。何十年にわたって同業者との取引が続くのは、単価が同じだからという理由ばかりではないでしょう。材の選び方や組み方によって表情が変わる建具。柾目、逆目といった木目を見ながら、全体のバランスを考え、お客様の意向にあう商品をつくり上げる。それが職人としての醍醐味です。



TOP VOICE

息子が跡を継ぎ、私はそろそろ引退と思うのですが、同業者はそうはさせてくれそうにありません。



原木素材からこだわり、確かな技で
一つひとつ丁寧に仕上げる。

——— 有限会社 まつしま建具店



有限会社 まつしま建具店

所在地 / 〒831-0026

福岡県大川市三丸1198-1

代表者 / 松島 忠幸

TEL0944-87-3310

FAX0944-87-0156

創業 / 昭和39年

設立 / 平成20年

資本金 / 500万円

従業員 / 2名

営業時間 / 8:00~18:00

定休日 / 日曜日



まつしま建具では、福岡や熊本建具製作者や工務店からの注文を受けて、一般戸建住宅の障子や板戸、フラッシュドア等を製作しています。

松島社長が得意とするのは、菱組やアールを巧みに使った高級感のある建具づくり。「どんなに美しく仕上がっても、自己満足では駄目です。お客様に喜んでいただけるも



のを作らなければ意味がありません」。資材となる杉は銘木といわれる吉野杉を使用。高品質な杉を求めて奈良県まで仕入れに向きます。

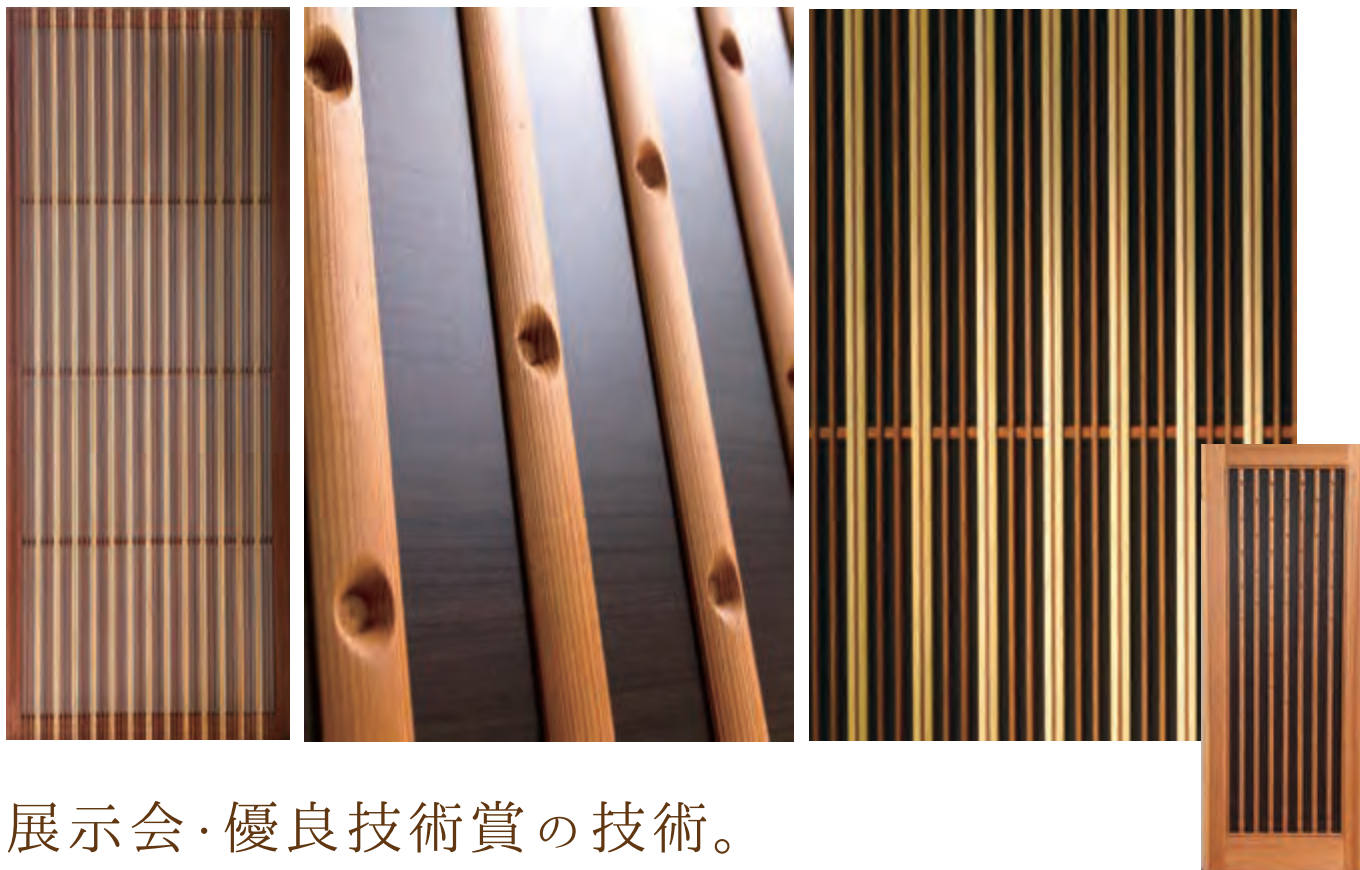
近年は組子を製品づくりに取り入れたいと、知り合いの組子職人からアドバイスをもらいながら技法のマスターに努めています。「最近は建具の素材も変化しています。伝統を守りながら、新しい技術や知識を取入れていくことも大切だと思います」。納得のいく作品が仕上がれば、今後は全国建具展示会にも積極的に出品する予定です。



TOP VOICE

お客様の喜びの笑顔が、職人にとって一番の励みです。「任せて良かった」と言われる丁寧な仕事を心がけています。





展示会・優良技術賞の技術。

デザインドアなど思いを形にします。——— 松本建具木工所



松本建具木工所
所在地/〒831-0041
福岡県大川市大字小保73-2

代表者/松本 満幸
TEL0944-87-3617
FAX0944-87-8805
創業/昭和55年
従業員/1名
営業時間/8:00~18:00
定休日/日祝日

代表の松本さんが木工の世界で最初に修業したのは、別注家具の製作。そこで5年以上の経験を積んで、実家に戻り建具屋を継ぐことになりました。もちろん、建具の腕前も一級品です。その証拠に2014年の大川優良建具展示会では優良技術賞を、スギのムク材で作った内ドアで受賞。

ほかにも印象的な縦サンを使った斬新なデザインの内ドアも製作されています。どれも建具の技術を生かした和風ながらも、モダンなデザインで今の洋風建築にもマッチします。

新築物件の建具全般の製作に加え、リフォームにも対応しているそうです。「お客



様のニーズに合わせてながら、より良い物を作るためにアドバイスもします」と松本さん。毎日触れる建具だからこそ、使い勝手や雰囲気にもこだわり、住む人に合わせて取っ手の位置や深さを調整するなど丁寧な仕事を心掛けているそうです。時にはカーテンから障子に返るといった提案もするといいます。最近では飲食店のカウンターやバック棚なども手掛けるなど、仕事の幅は広がっています。



TOP VOICE

お客様の思いやニーズに合わせた建具をデザインして、形にしたいと思います。私ができることは、何でもやりますので、ぜひご相談ください。和風の障子などはもちろん、洋風やモダンなドアなど、お客様の住まいに合わせて、美しく丁寧に作りたいと思っています。





TOP VOICE

業者からの注文で建具をつくることが多い私たちですが、その先にいらっしゃるお客さまに喜んでいただきたいという思いで、日々、丁寧な製品づくりに励んでいます。もちろん納期もきっちり守りますので、安心してお任せください。

人員が充実しているので

まとまった仕事も短期間でこなせるのが強みです。

有限会社 丸建建具店



有限会社 丸建建具店

所在地 / 〒831-0042

福岡県大川市大字九網373-1

代表者 / 古賀 英樹

TEL0944-87-3113

FAX0944-86-3991

[URL] <http://okawa-cci.or.jp/kigyouzuyouhou/company/1381marukentateguten/1381.html>

創業 / 1964年

設立 / 1964年

資本金 / 300万円

従業員 / 9人

営業時間 / 8:00~17:00

定休日 / 日曜・祭日

木製建具やフラッシュドアの製造・販売を専門としている丸建建具店。福岡を中心に九州一円のマンションや介護施設などの建具をつくっています。「人員が充実しているので、わりとまとまった仕事も短期間で仕上げられる。それがうちの強みでしょうか」と古賀社長は話します。

和室や床の間の減少とともに欄間や書院障子は減りましたが、その分、増えているのがフラッシュドアです。丸建建具店に仕事を依頼するのは、地場の建具



メーカー仲間が大半。いかに同業者から信頼され、頼りにされているかがわかります。工務店からの注文の場合は、打ち合わせをもとにデザインから手がけることも。ほかにも家具メーカーからフラッシュの注文が入ったり、「別注のような品物を」という依頼がくることもあります。どのような仕事であれ、丁寧な仕上げを第一に考えて建具を製作する。それが、丸建建具店のモットーです。



大川組子の精緻な技を 百年以上六代にわたり守り育む。

— 湊屋



湊屋

所在地 / 〒831-0021
福岡県大川市大橋314-5
代表者 / 志岐 浩実
TEL0944-86-4023
FAX0944-86-8452
創業 / 江戸時代
従業員 / 3名
営業時間 / 9:00~18:00
定休日 / 日曜日、第2土曜日

釘や糊などを一切使用せず、小さな木を組み上げて欄間や書院障子などの組子建具を製作する繊細な技、大川組子。湊屋はその伝統技術を江戸時代から代々受け継ぎ、代表の志岐さんは六代目に当たります。

三組手(みつくで)を基本に網代、四つ目、亀甲、八角、楢組、籠目など、200以上の技法がある大川組子は非常に繊細で奥が深く、職人には確かな技術と豊かな感性が求められます。全国建具展示会での内閣大臣賞をはじめ、数々の受賞歴をもつ志岐さんですが「まだ一度として自分の作品に満足したことはありません。木を見て、触れて、木と対話しながら製作する。その繰り返しです」と笑います。



TOP VOICE

先代たちが受け継いできた伝統の技に学び、木と真摯に向かい合いながら、お客様の好みや思いを形にします。



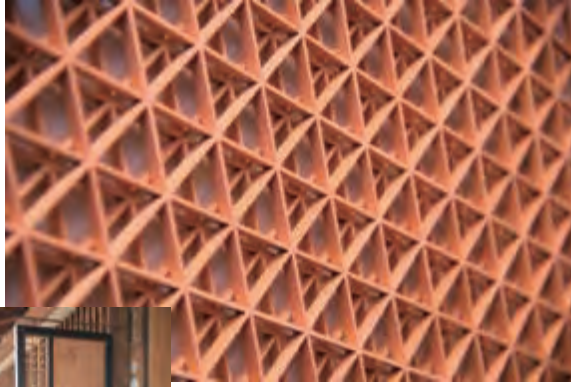
完成した作品は、全国の顧客のもとへと納品されます。なかには親子二代にわたり付き合いが長くリピーターのお客様も少なくありません。「先代たちが受け継いできた技の歴史はお金では買えない貴重な財産。常にそれを意識しながら人に感動を与える作品を作りたいですね」。

志岐さんは全国的にも数少ない女性の組子職人の一人として、伝統の技をしっかり守り続けています。





九州国立博物館で行われた
「大川匠の世界コレクション2013」



TOP VOICE

建具づくりは、お客さまの思いを形にする仕事。これまでも、マンションの寝室のカーテンを建具に替えたり、三角の窓に建具を取り付けるなど、さまざまなご要望にお応えしてきました。イメージの段階でもかまいません。お気軽にご相談ください。

伝統的な建具から、カフェや電車の内装まで。
持ち前のチャレンジ精神で、新たな試みも。

宮崎建具



宮崎建具

所在地/〒831-0041

福岡県大川市大字小保13番地

代表者/宮崎 宏樹

TEL0944-86-3550

FAX0944-86-3550

[URL]http://www.miyazakitategu.com/

[E-mail]info@miyazakitategu.com

創業/1927年(昭和2年)

営業時間/9:00~18:00

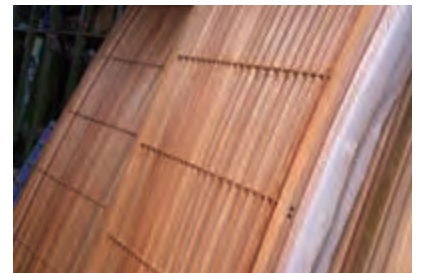
定休日/土日

1927(昭和2)年創業の宮崎建具。工房を守っているのは、2代目の宮崎楠男さんと息子の宏樹さんです。「建具のなかでも骨もんをメインにつくっています」と、宏樹さんが言う“骨もん”とは、障子や格子戸のように骨組みが見える建具のこと。それもデザイン性の高い建具が多いといいます。「たとえば書院障子だったら、丸く曲げた骨を入れてお月見をイメージさせるデザインにしたり…。」このように精密さが求められる建具は、CADによる製作図面の描き起こしに始まり、材料の目利きから製作、仕上げにいたるまで、高いレベルで取り組まなければなりません。



せん。

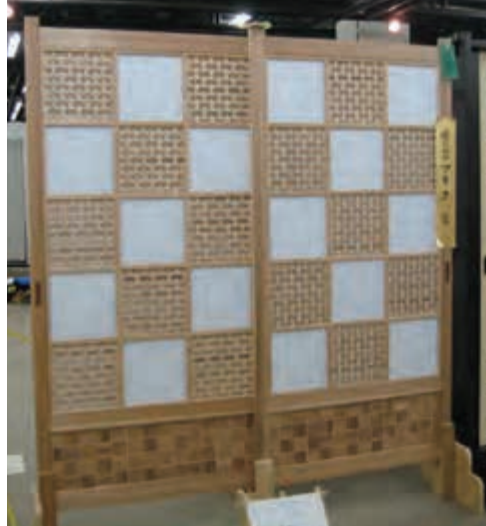
つくるものは建具だけにとどまりません。九州国立博物館で行われた「大川匠の世界コレクション2013」では、総檜造りのベッドル



ムが来場者の注目を集めました。また、弁当箱を引き出しに見立てた家具膳や、弁当箱のふたに組子をはめ込んだ組子膳は、大川の飲食店で愛用されています。

ホテルのクローゼットや電車の内装など、製造から施工まで手がける仕事も珍しくなく、遠くは長野まで取り付けに行ったこともあります。「変わった建具や難しい建具に取り組むのが一番面白い。伝統を守りながら、新しいものにもチャレンジしていきたいですね」と意欲を見せる宮崎さん。カフェの内装や展示会ブースの装飾に、そのチャレンジ精神がキラリと光ります。





父の代から納期遅れなく建具づくり50年。
近年はフラッシュドアを中心に製作しています。— 森満建具



森満建具

所在地/〒831-0014
福岡県大川市中木室904
代表者/森満 雄大
TEL0944-86-5613
FAX0944-86-5783
創業/昭和40年
従業員/2名
営業時間/8:00~17:00
定休日/日祝日、第2・4土曜



創業約50年。父が建てた工場で建具づくりを切り盛りするのは、森満雄大(たけひろ)さん。父と叔父の3人で建具をつくり、昨年1人の職人が新しく仲間に加わりました。将来を見据えて雇うことにしたそうで、「その分、新しい仕事を見つけないといけないけど、職人さんはすぐ見つかるわけではないから」と、雄大さんは話します。

工務店や建具問屋などの注文を受け、フラッシュドアを中心に障子や引き戸などをつくっています。



父から手取り足取り教えてもらった記憶はなく、父と一緒に働く職人を見て仕事を覚えていったとか。「失敗したら、父のいるほうから材が飛んできた」と言います。工場は緊張感に溢れ、父には「とても尋ねられない雰囲気」だったそうです。しかし、昔はそれが一般的。青年部などで同世代の仲間に相談しながら、「たくさんつくて覚えていった」と振り返ります。

同社の強みは「絶対に納期遅れをしない」こと。たとえ天候等によって工期が遅れたとしても、住宅の引き渡し日は決まっているため、建具の遅れは許されません。同業者のネットワークを生かしながら確かな製品をつくり、納期に間に合わせて信頼を築いてきました。卸し先とは長い付き合いが多く、それが同社の強みといえます。



TOP VOICE

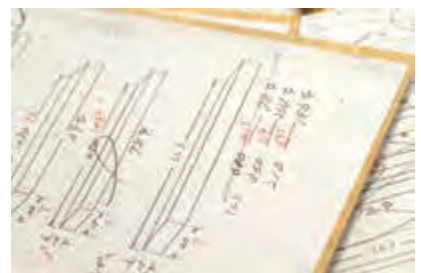
作った建具などを、50km圏内の住宅に直接立てつけに行くこともあります。



満足して使ってもらえる物を、
30年の経験で丁寧に作ります。———— ヤマヒロ建具



大川市内から仕入れたタモ、ナラ、スギなどの木材を使って、障子やフラッシュ戸などの建具全般を手掛けるヤマヒロ建具。「依頼されたら、木工で作れる物は何でも作る」と代表の古賀さんが話すように、ここでの制作物は多岐にわたります。例えば、木枠だけで構成された雪美障子を作ったり、エアコンの室外機を囲む柵を作ったり、さらには節句人形の飾り台を作ることもあるそうです。そのどれも「満足して使ってもらえる物を作ることを心掛けている」と古賀さん。お客さんは、建具屋や設計士など仕上げにこだわ



ヤマヒロ建具

所在地 / 〒831-0035
福岡県大川市津420
代表者 / 古賀 浩人
TEL0944-87-4011
FAX0944-87-9034
創業 / 昭和40年
従業員 / 1名
営業時間 / 8:00~18:00
定休日 / 日祝日



TOP VOICE

30年の経験を積んで来たので、木工で作れる物なら何でも作りたいと思っていますし、ある程度物なら作れます。一つひとつ、丁寧に作っていくことが私の仕事です。これからはしっかりと仕事をやっていきたいですね。

る人も多いが、一つひとつ心を込めて作り上げる丁寧な仕事で、クレームはほとんどないと言います。

2代目として活躍する古賀さんは「物が完成したら嬉しいし、お客さんに喜んでもらえたら、より嬉しい」と建具職人としての喜びややりがいを話します。この道30年の職人である古賀さんは、お客様の笑顔のために、これからも依頼された物を丁寧に作り続けるのです。



創業50年以上。親子三代、建具ひと筋。機械に頼らず、手仕事で建具全般をつくっています。————— 山本建具



山本建具

所在地/〒831-0005
福岡県大川市向島735
代表者/山本 武
TEL0944-87-2990
FAX0944-87-2951
創業/創業約50年
設立/昭和40年
従業員/3名



父の代から木製の建具全般を手がけ、今も障子、ドア、フラッシュドアをつくっています。同業の建具屋からの注文が多く、個人住宅や公園などの共同住宅、幼稚園などの公共施設などの建具を請け負っています。心がけていることは、お客様のニーズに合う商品をつくること。技術を駆使してどんどん手を加えることは可能ですが、予算や工



TOP VOICE

近年は、建具の構造を考えずにデザイン中心の設計図も多く、どうしたら、そのデザインを生かした建具になるのか考えます。夜、布団に入ってから考えたり、まさに職人気質です。



期との兼ね合いも大事。お客様の要望に合わせ、希望にあう商品をつくるようにしています。また、NCなどの機械を使わず、昔ながらのカンナを使ってほぼ手作業で仕上げているのが同社の特徴です。

現在、22歳の息子、鉄也さんが跡を継ぎ、親子三代、顔を並べて作業しています。「私の言うことは聞かないけれど、祖父ちゃんの言うことはよく聞きます」と、格子戸に似せたフラッシュドアをつくる手を休め、武さんは笑います。「仕事は見て覚えていくしかなく、1人でできるようになるまで10年ほどかかります。今は何もできず、父のそばに立ってジッと見ているだけだからきついでしょ。だから早く覚えて、自分でつくれるようになって欲しい。そうになったら、仕事が面白くなります」。

機械に頼らず、カンナを握って腕を上げていった武さん。息子の成長が楽しみでもあります。



職人と技術と経験で 製作から施工まで丁寧に仕上げる。

横田建具木工所



横田建具木工所

所在地/〒831-0035

福岡県大川市津618-10

代表者/横田 光市

TEL0944-87-7027

FAX0944-87-7243

[E-mail]yokotatategu@chorus.ocn.ne.jp

創業/昭和40年

従業員/4名

営業時間/8:00~17:00

定休日/日祝日

現社長の祖父が家具づくりの木工所を創業して以来、半世紀近く家具や建具の製作に携わってきた横田建具木工所。現在は戸建住宅からマンション、学校、老健施設、幼稚園等のドアや引き戸などを中心に製作しています。取引先は福岡や佐賀の内装業者や工務店、リフォーム業者などです。同社では製作業務だけでなく現場施工まで請け負います。建具の施工は、建築工程の最終段階になるためにタイトなスケジュールになりがちなため「施工現場では、建物の最終検査の後でも作業しているケースが多いですよ」と笑う横田社長。かなり厳しいスケジュールの



仕事の依頼を、職人の技術と経験でクリアしてきたという自負があります。時には自社の利益は度外視

で納期を優先することも。そのような姿勢が認められ仕事はほとんどが取引先や知人からの紹介です。苦労を重ねた現場で築いた信用が着実に実を結んでいます。



TOP VOICE

建具製作から現場施工まで、仕上りに責任をもって仕事に取り組んでいます。お気軽にお問い合わせください。



勤続30～40年のベテラン職人とともに
注文通りに丁寧に商品をつくっています。——吉北建具木工所



吉北建具木工所
所在地／〒830-0416
福岡県三潁郡大木町八町牟田1627
代表者／吉北 和彦
TEL0944-33-0522
FAX0944-33-0294
創業／昭和40年
従業員／4名
営業時間／8:00～17:30
定休日／日曜



父が建具メーカーとして看板を上げてから約50年。息子の和彦さんが2代目として跡を継ぎ、障子やドア、フラッシュドアの製作を続けています。同社の強みは、勤続30年～40年の職人がいること。彼らは、父が腕を振るっていた頃に内弟子として入り、住み込みで和彦さんと一緒に技を磨いてきました。和彦さんは父から技術を教わった記憶はあまりなく、



TOP VOICE

同社は製作から納品まで行い、立てつけは行っていません。モットーは、「早く、綺麗に、安く」。同業者からの受注生産がほとんどのため、注文通りにつくるよう心がけています。



職人さんから教わったとか。和彦さんにとって職人さんは「家族」であり「先輩職人」であり、そして「先生」だったと言えましょう。だからこそ互いに信頼し、長年にわたって共に商品づくりに精を出ることができたのです。しかし年々、デザインは複雑になっているのだとか。というのも、建具メーカーが減少し、そのような商品をつくれる職人が減っているからです。

同社は腕が衰えないよう、建具展示会などへの出品を続け、数々の賞も受賞しています。その努力があるからこそ、同社には注文が途切れないのでしょう。

嬉しいことに2人の息子が今、工場と一緒に汗を流しています。「跡を継がなくてもいい、好きなことをしていいと言っていたんですがね」と話す和彦さん。嬉しい反面、「息子に期待していない」とも言います。試行錯誤しながら、自ら技と時流をつかむ力強さを持ってほしい。親として、また先輩職人として見守っていくつもりです。



精緻で美しい建具づくりに
百余年受け継がれた技が生きる。————— 龍野建具店



龍野建具店

所在地／〒831-0041
福岡県大川市小保139
代表者／龍野 正博
TEL0944-86-5060
FAX0944-86-5060
創業／大正期
従業員／3名
営業時間／8:00～17:00
定休日／日曜祭日



TOP VOICE

長い職人経験を生かし、通常では少々手こずするような建具や神具などを丁寧に仕上げています。お気軽にご相談ください。



龍野(りゅうの)建具店は大正時代の創業。以来、百余年にわたり建具製作の技を受け継いできました。書院や欄間、障子、門扉やドアなども製作します。

注文は主に長崎や佐賀など県外の建具屋や大工職人から入ります。「構造が複雑で手がかかるものを得意としているので、県外の建具屋さんからの注文も多いですよ」と語るのは一級建具技能士と職業訓練指導員の資格を持つ代表の龍野さん。神社や寺からの依頼も多く、八脚案や御幣台などの神具や寺の門扉なども製作しています。

また、先代から指導を受けた組子細工は、展示会に出品しなくても口コミで評判が伝わり専門の職人からも高い評価を受けています。「以前は夜中の11時や12時まで仕事をしないと納期に間に合わないという毎日でした」。現在は少し時間にも余裕が生まれ、工場で建具職人として一緒に働く弟達とものづくりに励んでいます。



「手を抜かず、基本に忠実に」がモットー。
花や亀甲組子を使った美しいデザインが特徴です。

渡辺建具



渡辺建具

所在地／〒831-0041
福岡県大川市小保17-1
代表者／渡邊 健次郎
TEL0944-87-8381
FAX0944-87-9519
創業／昭和5年
従業員／1名
営業時間／8:30～18:00
定休日／不定

工場の片隅に設けられたショールームに向かうと、思わず窓に目が行きます。障子を通して差し込む丸い光。まるで月が上がっているように見えて、何とも幻想的。組子の美しさも引き立ちます。生活の中に芸術を取り入れたような美しいデザインと、それを表現する確かな技術が同社の特徴であり、数々の賞がそれを物語っています。

ショールームにすらすらと並ぶ建具は、桐や花、星などをあしらったものばかり。どれも手が込んでいて、見入ってしまいます。しかし、花や亀甲のデザインを生かしているのは、縦に伸びた直線なのかもしれません。40cmほどの幅に5.5mm～6mm間隔で60本ほどの材を組んでいるといいます。材の厚さはわずか数mm。今は機械の性能が向上し、厚さ1mmの材も作れるそうですが、それに



TOP VOICE

心がけていることは「基本に忠実にすること、手を抜かないこと」。「安価に作る方法も知っているけれど、ごまかしはできない」と渡辺さんは笑います。



切り込みを入れて組んでいくのですから、根気のいる作業です。

建具は強度が命。糊付けする障子紙の収縮を考慮しなければ、棧が曲がってしまいます。隅々まで心を配り、強くそして美しい建具を、20以上の小さなカンナを使って丁寧につくっています。